

# 文教民生委員会 行政視察調査報告書

- 1 視察日 2024年5月8日（水）～10日（金）
- 2 視察先  
調査事項
- 東京都文京区
    - ・ひきこもり支援センターの取り組みについて
  - 東京都文京区社会福祉協議会
    - ・文京ユアストーリー事業について
    - ・フミコム事業について
  - 東京都稲城市
    - ・医療計画について
- 3 視察者
- |       |              |
|-------|--------------|
| 委員長   | 芦田竹彦         |
| 副委員長  | 小森弘詞         |
| 委員    | 太田智博         |
| 委員    | 須山泰一         |
| 委員    | 田中藤一郎        |
| 委員    | 米田達也         |
| 当 局   | 原田政彦（健康福祉部長） |
| 議会事務局 | 小崎新子         |



文京区生活福祉課から説明をうける



文京区議場にて



文京区社会福祉協議会にて意見交換



稲城市にて委員長あいさつ

日 時	2024年5月8日(水) 午後1時30分～午後3時00分
視 察 先	東京都文京区
調査項目	ひきこもり支援センターの取り組みについて
調査内容	<p>文京区 福祉部 生活福祉課より</p> <p>■文京区版ひきこもり総合対策</p> <p>【設置までの経緯】</p> <p>若年層を対象としたひきこもり等自立支援事業(STEP)を実践した経験から社会的問題となっていた中高年齢層のひきこもりを背景とした「8050問題」への支援として支援対象年齢を40歳以上に拡大し併せて、児童生徒の不登校からのひきこもりへのリスクを視野に入れた教育と福祉との連携、さらには、自立相談支援事業のほか、社協や高齢者あんしん相談センター等との連携を強化し、属性や世代を問わない全世代を対象とした総合的な相談支援事業を行う。合わせて「文京区ひきこもり支援センター」を設置するものである。</p> <p>【目的】</p> <p>① 地域と行政との連携を主軸と位置づけ、相談支援に関する情報の一元化と相談支援窓口の明確化</p> <p>② 支援関係機関連絡会議を定期的開催し多職種・多機関による情報の共有</p> <p>【支援体制】</p> <p>○直営「文京区ひきこもり支援センター」福祉職2名、心理職1名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談窓口としての一次対応に特化した業務</li> </ul> <p>○委託「ひきこもり等自立支援事業」心理職16名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な支援に関する相談とし、居場所運営や中間的就労等の社会参加支援</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が弱いと思われる年齢層が39歳から50歳であり、支援センターを明確化しても支援ネットワークの構築が必要である。区民へ取り組みに関する情報発信を行い認知してもらう活動が大事である。</li> </ul>
所 感	<p>・大学が多い地域であり地方から上京した学生が目標を見失いひきこもりになるケースがあるという。また8050問題から15歳から65歳に対して一元的な対応が必要であると判断し取り組みを展開されている。</p> <p>豊岡市も大学ができ他府県から多くの学生が生活している。目標を見失いひきこもりにならないよう地域と大学が連携し合うことが大切である。また、高齢者宅訪問でひきこもり者を発見したケースもあったとのこと。本市でも十分考えられるケースであると感じた。ひきこもり支援センターの相談員は公務員が担当していることから相談者へ安心感が得られているとのこと。アウトリーチをしながら対応すべきである。</p>

日 時	2024年5月8日(水) 午後3時30分～午後5時00分
視 察 先	東京都文京区社会福祉協議会
調査項目	文京ユアストーリー事業、フミコム事業について
調査内容	<p>■文京区単身高齢者等終活支援事業「文京ユアストーリー」</p> <p>【新規事業開発の経緯】</p> <p>地域福祉コーディネーターが居場所づくり活動の中で掘んだ地域課題「身近に頼れる人がいない高齢者の中には、安心した地域生活を続けることが難しい方が多い」を解決するため、情報収集や財源確保、関係者との連携体制づくりを行いながら事業設計を行った。高齢者の終活に関しては専門的な知識が必要となり、様々な専門職や知見のある方々の協力のもと、スタートした。</p> <p>【目的 契約者に行うサービス】</p> <p>①定期連絡（元気な時に契約）</p> <p>②入院時、介護や認知機能低下時の適切なサービスへの利用サポート（手伝いが必要になった時に預託金等を利用）</p> <p>③死後事務を一体的にサポート（亡くなった際の葬儀・死後事務）これらをサポートすることで、住み慣れた地域とつながりをもちながら安心して暮らし続けること</p> <p>【事業の特徴】</p> <p>民間事業との違い</p> <p>①地域活動への参加支援や地域資源の情報共有など地域とのつながりを作り、孤立を防止する支援が可能</p> <p>②実施主体への信頼性、また契約期間が長期になることが見込まれるため安定した事業継続が可能</p> <p>③権利擁護センターなどの権利擁護事業部署との連携による適切な制度の利用等を検討し、本人の希望も考慮し、任意後見人制度等の利用を総合的に判断することが可能</p> <p>■地域連携ステーション フミコム</p> <p>【事業概要・目的】</p> <p>地域住民、学生団体等が連携し、活性化・社会課題解決の一助となる場の創設</p>
所 感	<p>・都心においても、独居の高齢者の方々の抱える課題は本市と変わらず、地域住民同士の繋がり的重要性を強く感じた。文京区では、行政と社協が密接な関係を構築し、地域の高齢者の方々が安心して住み慣れた街で人生を閉じられるよう、取り組んでおり、令和元年開始から当事業での契約者数は32名、都市部でこの人数が多いのかは単純に判断出来ないが、この32名の方にとっては、この上ない安心感を持って頂けているのではないかと思える事業であった。</p> <p>・フミコム事業に関しては、地域に住む学生から高齢者までを対象に、様々なイベントや講座といった場を設け、「地域に踏み込むはじめての一步」をテーマに人間関係の構築に努めており、多様な世代の参加者が交流されている。</p>

日 時	2024年5月9日(木) 午後1時30分～午後3時00分
視 察 先	東京都稲城市
調査項目	医療計画について
調査内容	<p>東京都稲城市</p> <p>人口 93,823 人 (2024 年 4 月 1 日 現 在)、面 積 17.97 km<sup>2</sup> (市 役 所 か ら 十 数 分 で 市 内 全 域 に 行 け る)、南 多 摩 保 健 医 療 圏</p> <p><b>【市独自の医療計画策定の背景と目的】</b></p> <p>①平成 26 年より都道府県が「地域医療構想」を策定することになったが、都が策定する地域医療構想では南多摩保健圏域を単位とした検討が進められており、稲城市の医療提供体制や市民ニーズが反映されたものとならないことが懸念された。</p> <p>②高齢化の進展により在宅医療へのニーズの高まりが想定され、医療資源の不足や偏在等の課題を明らかにし、誰もが身近な市内で医療を受けられるよう、平成 28 年 3 月に 10 年 (平成 28～令和 7 年度) の稲城市医療計画を策定。</p> <p>③高齢福祉課が推進する「介護保険事業計画」とあわせて、市独自の医療計画を推進することで地域包括ケアシステムの構築に取り組む。</p> <p>④在宅医療の認知度向上と終末期医療の充実を図ることを目的に令和 3 年度に中間見直しを行った。</p> <p>※そもそもの計画の提案者は元福祉部長の現副市長。</p>
所 感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師不足対策の質問には「慶応の医局から来ていただいている」「半径 10km 以内に 5 つの大学病院がある」ということだった。また人口推計も今後増加が見込まれている。そうした点は豊岡や但馬とは条件が大きく違うが、そこでの取り組みを学び、豊岡市でどうすべきかを考える上で、視野が広がった。</li> <li>・ 市として入院医療、入院外医療、救急医療、在宅医療等について、それぞれの市内対応の割合、市外対応の割合がデータとして出されており、これらを集約、分析し、市独自の医療計画を立てられている。</li> <li>・ 市内の医療ニーズに対して、できるだけ市内で応えようとされている。</li> </ul>